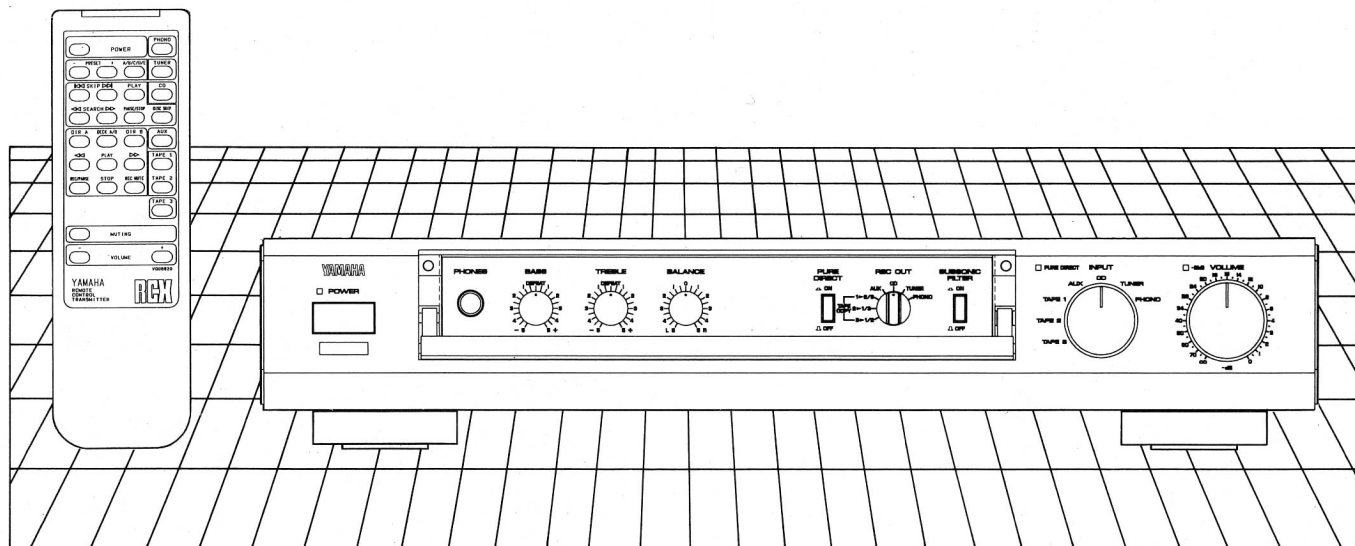


# YAMAHA

## NATURAL SOUND STEREO PRE-AMPLIFIER

# CX-1

## 取扱説明書



このたびは、YAMAHAステレオプリアンプCX-1をお買  
い求めいただきまして、誠にありがとうございます。  
CX-1の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支  
障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取  
扱説明書を必ずお読みください。  
お読みになったあとは、保証書と共に保管してくださ  
い。

### 目次

特長 .....	2
ご使用上の注意 .....	2
ご使用前に(付属品を確認してください) .....	3
接続のしかた .....	4~5
フロントパネル部の名称とはたらき .....	6
リモコンキーの名称とはたらき .....	7
再生のしかた .....	8
録音のしかた .....	9
タイマーとの組み合わせ使用 .....	10
故障かなと思ったら .....	11
参考仕様 .....	12
特性図 .....	13
ブロックダイアグラム .....	14
ヤマハホットラインサービスネットワーク .....	15

ご使用前に必ずお読みください。

## 特 長

- 最高のパフォーマンスを得るために、電気回路からレックやツマミまで厳選しつくしたアンプです。信号経路はストレート。レイアウトは対称。その結果、チャンネルセパレーション85dB、歪率0.002%を実現しました。  
また、ピンジャック、ヘッドフォンジャックの他、極太ワイヤーまで金メッキ品を使用しています。
- ローノイズイコライザーアンプ、MCヘッドアンプ構成。
- 高性能4連ボリュームを使用。  
小音量時のSN比、残留ノイズを改善しています。
- 信号の純粋性を極めるためのピュアダイレクトスイッチを設け、トーンコントロール回路をバイパスすることができます。
- 録音やテープダビングに便利な独立レックアウトセレクター。
- 別売ヤマハパワーアンプMX-1と組み合わせると、本機のパワースイッチと共にON/OFFができます。

### 音楽を楽しむエチケット

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。



楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を開めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

## ご使用上の注意

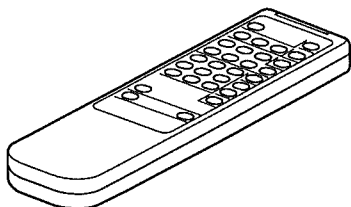
- ◆ 本機を次のような場所へは設置しないでください。
  - 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所(周囲温度40℃以上)、または温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)は、本機の性能を維持できない場合があります。
  - 湿度の多い場所(湿度90%以上)は、金属部分にサビを生じたり故障の原因となります。
  - ホコリの多い場所は、スイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり、本機の性能を維持できない場合があります。
  - その他、トランスやモーターの近くまたは振動の多い場所への設置は誘導ハムをひろう原因となります。
  - 本機は、通気性の良い場所に設置してください。発熱を防げるようなラックなどには入れないでください。
- ◆ ベンジン、シンナー系の液体および化学雑巾の使用や、周囲でのエアゾールタイプの殺虫剤の散布は避けてください。お手入れは、必ず柔らかい布を使用し、乾拭きしてください。
- ◆ スイッチやツマミ、コードなどに無理に力を加えることは避けてください。
- ◆ 定格電源100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特にコンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。  
\*本機は国内電源AC100V±10V、50/60Hzの範囲でお使いください。この電圧以外でのご使用は故障などの原因となりますので絶対に避けてください。
- ◆ 落雷の恐れのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜き取ってください。
- ◆ 万一本機に雨や花瓶などの水がかかったときは、ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。その状態で電源を入れますと、感電の恐れがあり危険です。また故障の原因になりますのでご注意ください。
- ◆ トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。内部に異物が入ったときは、ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。
- ◆ クリックノイズによるスピーカーの破損を防止するため、接続の際は電源スイッチを切ってから行ってください。
- ◆ 故障かなと思われる場合は、まず11ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。
- ◆ お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。
- ◆ この取扱説明書はお読みになった後も、保証書とともに大切に保管してください。

# ご使用前に

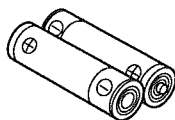
## 付属品

付属品を確認してください。

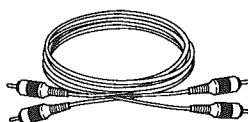
リモコン



単3乾電池 2本



出力コード

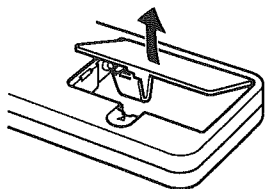


リモコンコード

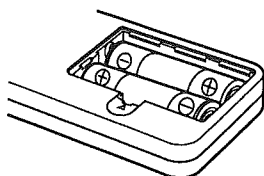


## リモコンに電池を入れてください

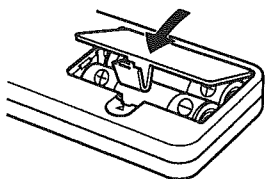
1. リモコンの裏蓋を開けます。



2. 付属の単3乾電池2本を、ケース内の表示通り(“+”“-”の向き)に正しく入れてください。



3. 裏蓋をカチッと音がするまで押して、閉めます。



## 乾電池についてのご注意

- プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 消耗してきた乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

## リモコンの取り扱い

リモコンはていねいに扱ってください。

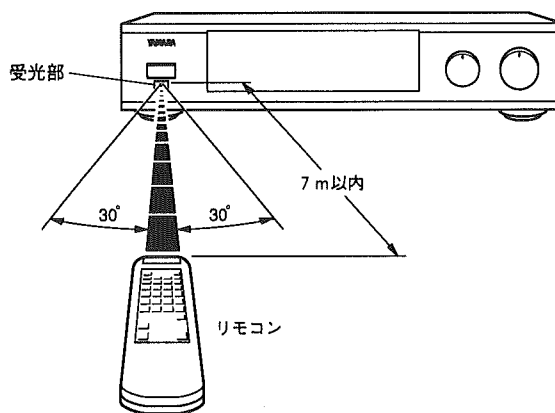
お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。また、下記の所には置かないようご注意ください。

- ストープのそばや風呂場など温度・湿度の高いところ。
- ほこりの多いところ。
- 極端に寒いところ。

## リモコンの使用範囲について

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

- 受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。
- 受光部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。照明または本機の向きを変えてください。



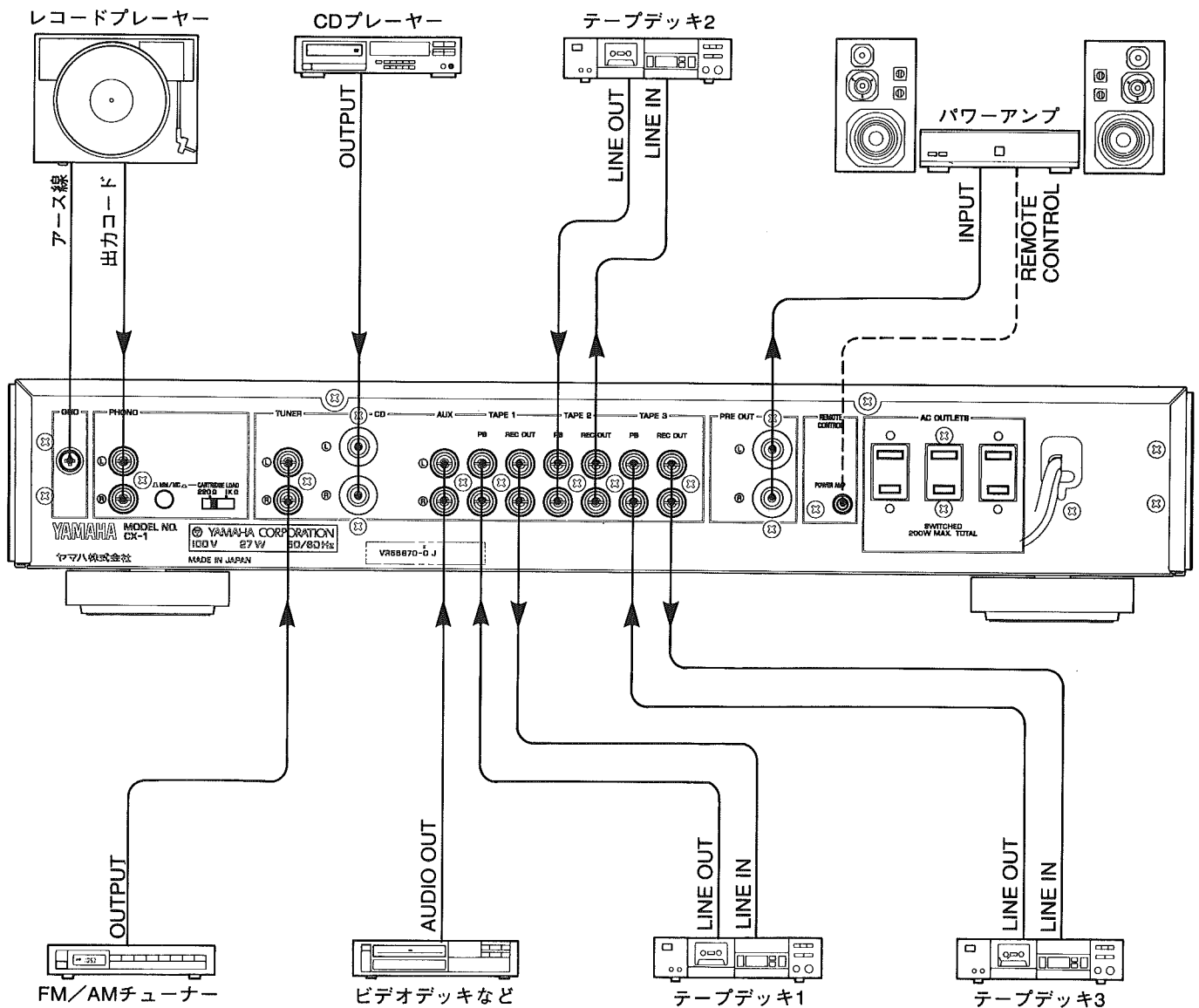
## 乾電池の交換

乾電池が消耗してきますと、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押しても動作しなくなりますので、その場合は新しい乾電池(2本同時)と交換してください。

# 接続のしかた

## ご注意

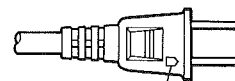
- 接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
- 接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して、正しく確実に接続してください。
- 接続端子に接点復活剤を塗布することは、避けてください。端子及び周辺の樹脂部分が割れたりすることがあります。接続端子を清掃するときは、無水アルコールで拭いてください。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。



- \* テープデッキを接続した場合、テープデッキの電源をOFFの状態にしますと、本機の音が歪む、又は音が小さくなる場合がありますので、テープデッキの電源はONの状態にしてください。
- \* 本機の電源をOFFの状態に接続されている機器の音をモニターまたは録音した場合、音が歪むことがありますので本機の電源はONにしてお使いください。

## 電源プラグ

電源プラグは、接続が完了するまで、コンセントに差し込まないでください。本機の消費電力は27Wです。本機の電源プラグは必ず家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに接続してください。本機の電源プラグには電源トランスの巻始めが極性表示されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、好みの極性でお使いください。

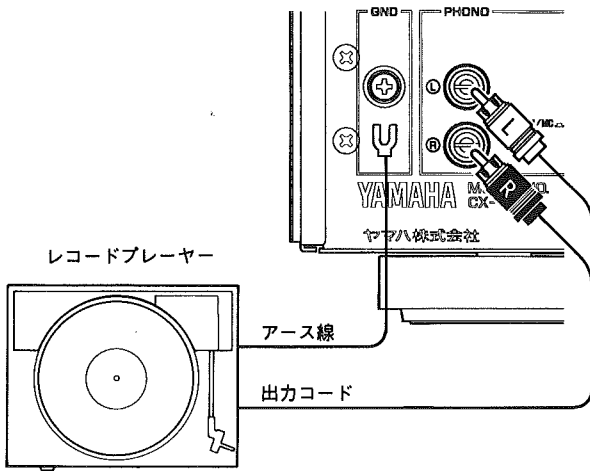


極性表示

## レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に、L,R正しく確実に差し込んでください。アース線はGND端子に接続します。

\*レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。



### ● PHONOセクタースイッチについて

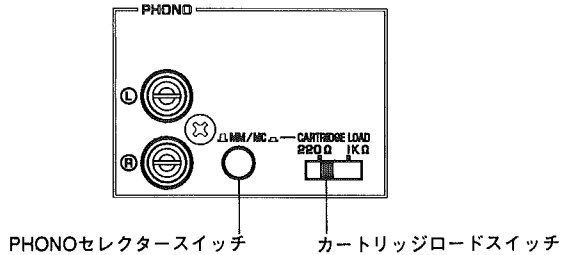
ご使用になるレコードプレーヤーのカートリッジに合わせてMMまたはMCを選びます。なお高出力MCカートリッジはMMの位置を選びます。

MM型カートリッジ	MM (■)
MC型カートリッジ	MC (▲)

\* PHONOセクタースイッチを切り替えるときにポップノイズが出ることがあります。必ずボリュームコントロールを左に回し音量を下げてから、切り替えを行ってください。

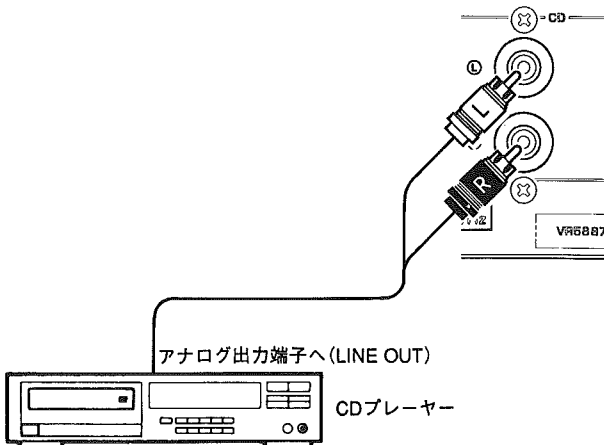
### ● カートリッジロードスイッチについて

MC型カートリッジの場合には、カートリッジロード(負荷)を220Ω、1kΩと選択できます。カートリッジロードは、使用されるカートリッジの取扱説明書をご覧になって、指定値を調べてください。指定値が不明の場合は、試聴してお好みの音質となる位置に選んでください。



## CDプレーヤー、チューナー、その他ビデオデッキなどの接続

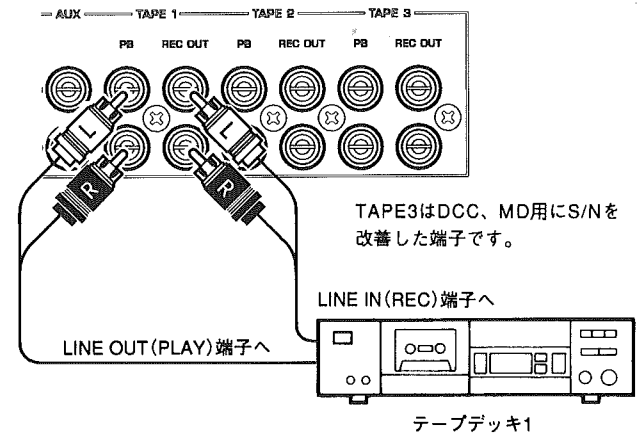
CDプレーヤーはCD端子に、チューナーはTUNER端子に、その他ビデオデッキなどの音声出力をAUX端子に、それぞれL,Rを正しく確実に接続します。



## テープデッキの接続

デッキのLINE OUT(PLAY)端子と本機のTAPE PB端子を、デッキのLINE IN(REC)端子と本機のREC OUT端子をそれぞれL,Rを正しく確実に接続します。

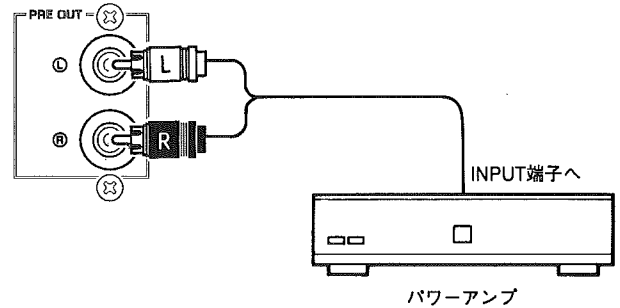
本機では、TAPE1、TAPE2、TAPE3端子にテープデッキが3台まで接続できます。



TAPE3はDCC、MD用にS/Nを改善した端子です。

## パワーアンプの接続

パワーアンプのINPUT端子と本機のPRE OUT端子を、付属の出力コードでL,R正しく確実に接続します。



## リモートコントロール端子

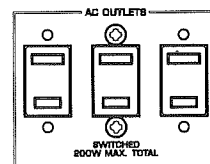
別売のヤマハパワーアンプMX-1を、本機の電源スイッチと連動してON/OFFさせるためのリモートコントロール端子です。MX-1のリモートコントロール端子と本機のリモートコントロール端子を、付属のリモコンコードで接続してください。



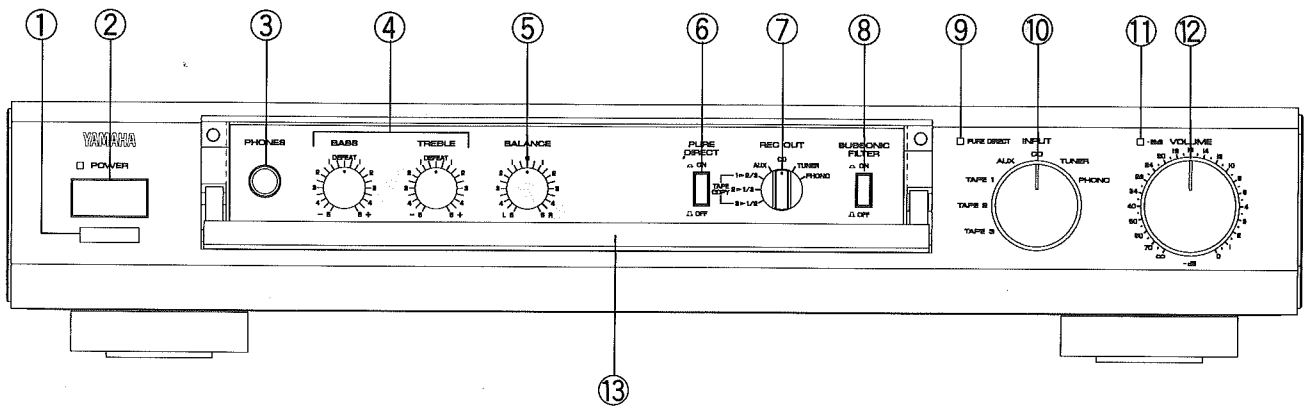
## AC OUTLET SWITCHED(電源供給コンセント)

本機のPOWERスイッチと連動しています。3つのコンセントに合計消費電力が200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

本機コンセントの長い方の穴が電源トランスの巻始め側となっております。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。



# フロントパネル部の名称とはたらき



## ①リモコン受光窓

付属リモコンのコントロール信号を受光する窓です。

## ②POWERスイッチ/インジケータ

本機の電源をON/OFFします。

電源をONにするとインジケータが点灯します。

電源をONするときは、ボリュームコントロール⑫を必ず最小の位置(∞)にしておいてください。

\*電源をONしても数秒間は、本機のミュート機能により音は出ません。

## ③PHONESジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。

深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお薦めします。

\*ヘッドホンを接続すると、PRE OUTからは出力されませんので、スピーカーの音は出ません。

## ④トーンコントロール

低音域・高音域を調整します。

**バス**  
BASSツマミ : 低音域を調整するツマミで、右(+に回すほど低音域が強調され、左(-)に回すほど減衰されます。DEFEATの位置でフラットな特性になります。

**トレブル**  
TREBLEツマミ : 高音域を調節するツマミで、右(+に回すほど高音域が強調され、左(-)に回すほど減衰されます。DEFEATの位置でフラットな特性になります。

## ⑤BALANCEコントロール

音量バランスを調整します。ツマミをL(R)側に回すほど、R(L)側の音が小さくなります。通常は0位置にセットしておきます。

## ⑥PURE DIRECTスイッチ

スイッチをONにすると、PURE DIRECTインジケータ⑨が点灯し、入力セレクターで選択されたソースの入力信号が、トーンコントロール、バランスの回路がパスされて、シンプルな回路構成となるため、劣化の少ないよりピュアな再生をすることができます。

## ⑦REC OUTセレクター

テープデッキなどで録音するソースを選択するスイッチです。本機背面のTAPE1、TAPE2、TAPE3の各REC OUT端子に、入力セレクターによって選択されたソースとは独立したソースの信号を出力します。

\*詳しくは9ページを参照してください。

## ⑧SUBSONIC FILTERスイッチ

レコード再生時にこのスイッチを押すと、内蔵のサブソニックフィルターが働き、レコード盤のそりなどが原因で発生するスピーカーのコーン紙のふらつきによる歪を防止することができます。

## ⑨PURE DIRECTインジケータ

PURE DIRECTスイッチ⑥をONにすると、このインジケータが点灯します。

## ⑩INPUTセレクター

再生したいソースを選択するツマミです。

## ⑪ミュートインジケータ

リモコンでミュートをONすると、点灯します。ミュート時は1/10の音量となります。

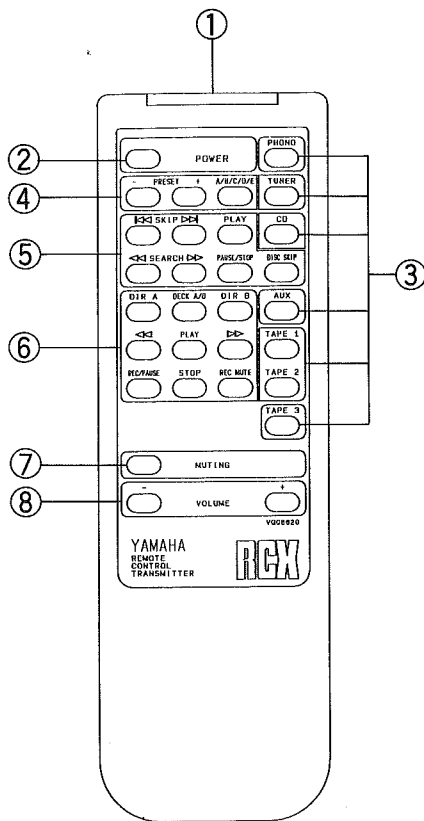
## ⑫VOLUMEコントロール

音量を調整するツマミで、右に回すほど音量が大きくなります。

## ⑬シーリングパネル

開けるときは、パネル上部を軽く指で引いてください。

# リモコンキーの名称とはたらき



## ①送信窓

リモコンのコントロール信号を送信する窓です。

## ②POWERキー

本機の電源をON/OFFします。

## ③インプットセクターキー

再生したいソースを選択するキーです。

## ④チューナーコントロールキー

ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。

PRESET : プリセットされた放送局を選局します。

A/B/C/D/E : プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。

\* 詳しくは、チューナーの取扱説明書を参照してください。

## ⑤CDコントロールキー

ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。

CDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じ働きをします。

SKIP ◀◀ : 曲の頭に戻ります。

SKIP ▶▶ : 次の曲の頭に進みます。

PLAY : 演奏をスタートさせるキーです。

SEARCH ◀◀ : 早戻しします。

SEARCH ▶▶ : 早送りします。

PAUSE/STOP : 一度押すと一時停止し、もう一度押すと演奏が停止します。

DISC SKIP : ディスク番号を選びます。

\* 詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

## ⑥テープデッキコントロールキー

ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。

テープデッキのリモコンに表示されているキー名称と同じ働きをします。

DIR A : デッキAのテープ走行方向を選択します。(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します。)

DECK A/B : ダブルデッキのデッキAとデッキBを選択します。

DIR B : デッキBのテープ走行方向を選択します。

◀◀ : ◀◀ 方向の早送りをします。

PLAY : 再生をスタートします。

▶▶ : ▶▶ 方向の早送りをします。

REC/PAUSE : 録音一時停止状態になります。

STOP : 再生または録音の停止をします。

REC MUTE : 録音中に無録音部分を作るときに押します。

\* 詳しくは、テープデッキの取扱説明書を参照してください。

## ⑦MUTINGキー

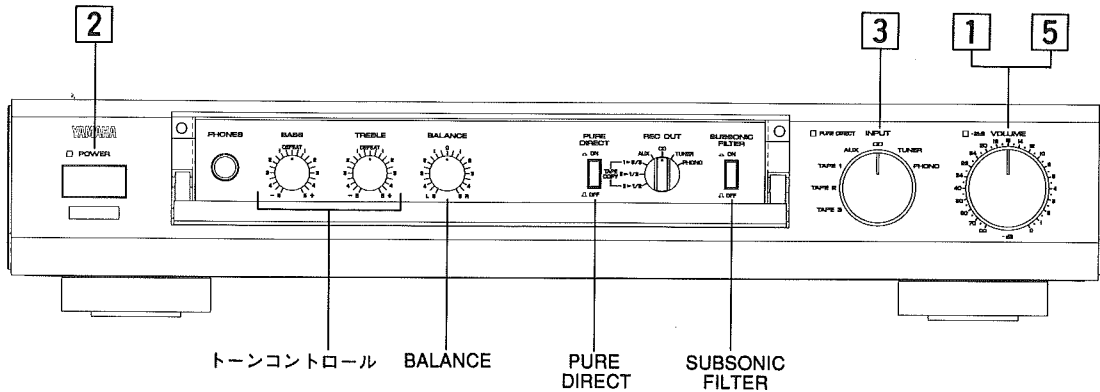
音量を一時的に小さくしたいときに押します。このとき、本体のVOLUMEツマミ左のインジケーターが点灯します。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。

## ⑧VOLUMEキー

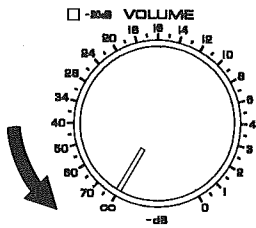
音量(VOLUME)を調整します。

“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと音量が小さくなります。

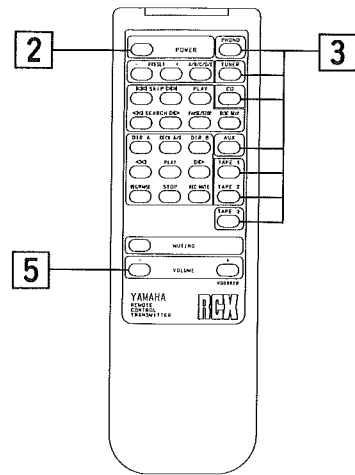
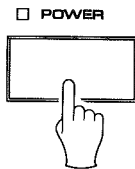
# 再生のしかた



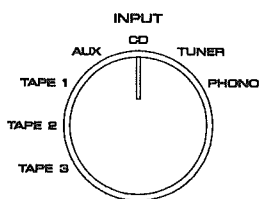
## 1 VOLUMEを絞る



## 2 本機ならび、各機器の電源を入れる



## 3 INPUTセクターでソースを選ぶ



- PHONO: レコードを聴くとき。
- TUNER: AM/FM放送を聴くとき。
- CD : CDを聴くとき。
- AUX : AUX端子に接続した機器を聴くとき。
- TAPE 1: テープデッキ1を聴くとき。
- TAPE 2: テープデッキ2を聴くとき。
- TAPE 3: テープデッキ3を聴くとき。

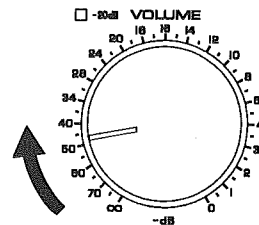
### レコードプレーヤーを再生する場合

- 使用するカートリッジに合わせて本機背面のフォノセクタースイッチを、MMまたはMCにセットしてください。
- スピーカー保護のため、SUBSONIC FILTERスイッチを"ON"にして使用することをお勧めします。

## 4 ソースの演奏を始める

\* それぞれの機器の取扱説明書をよくお読みください。

## 5 好みの音量にする



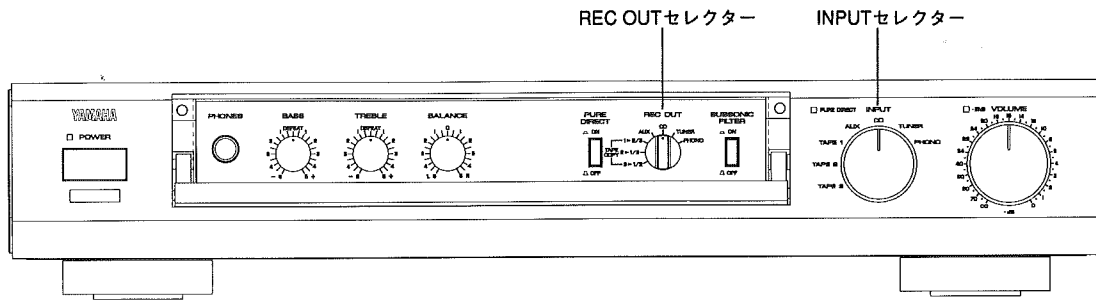
### 音質、音量バランスを調節するときには

PURE DIRECTスイッチをOFFにします。

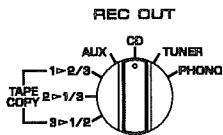
低音を調節するときには、トーンコントロールのBASSで、高音を調節するときにはTREBLEを使います。また、左右のスピーカーの音量バランスはBALANCEコントロールで調節します。



# 録音のしかた



1. 前ページ「再生のしかた」の手順①・②と同じ操作をする
2. REC OUTセクターで、録音したいソースを選ぶ



- PHONO : レコードを録音するとき。
- TUNER : AM/FM放送を録音するとき。
- CD : CDを録音するとき。
- AUX : AUX端子に接続した機器を録音するとき。

3. INPUTセクターで、録音したいソースを選ぶ
4. 録音したいソースの再生ならびに、テープデッキの録音をスタートさせる
  - \* 録音レベルの調整は、それぞれのデッキで行います。ご使用になる機器の取扱説明書をよくお読みください。

5. VOLUMEで、音量を調整する
  - \* 本機の電源OFF状態で、録音はできません。
  - \* 録音の際、トーンコントロール(BASS、TREBLE)、BALANCEコントロール、PURE DIRECT、VOLUMEを操作しても、録音には影響しません。

## テープダビングをする場合

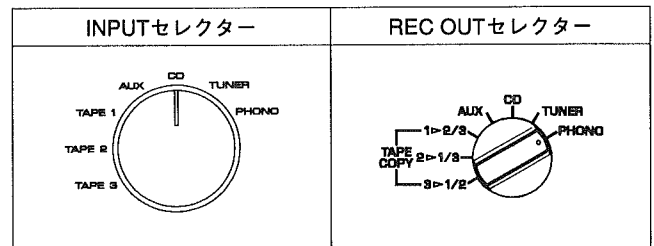
REC OUTセクターで、ダビングするテープデッキを選びます。

## TAPE COPY

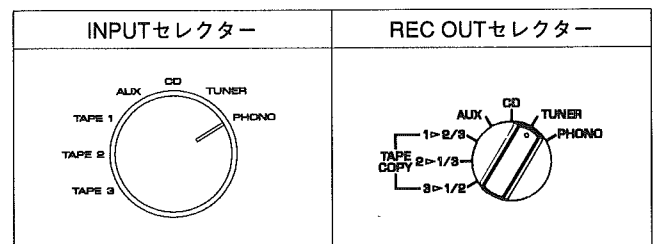
- 1▶2/3 : テープデッキ1からテープデッキ2またはテープデッキ3に録音するとき。  
(テープデッキ2とテープデッキ3に同時に録音することもできます。)
- 2▶1/3 : テープデッキ2からテープデッキ1またはテープデッキ3に録音するとき。  
(テープデッキ1とテープデッキ3に同時に録音することもできます。)
- 3▶1/2 : テープデッキ3からテープデッキ1またはテープデッキ2に録音するとき。  
(テープデッキ1とテープデッキ2に同時に録音することもできます。)

● 録音しながら、別のソースを聴くことができます。

【使用例】レコードを録音しながら、CDを聴く。



【使用例】チューナーの放送を録音しながら、レコードを聴く。



この他にもINPUTセクターとREC OUTセクターの組み合わせにより、いろいろなソースを二重に楽しむことができます。

# タイマーとの組み合わせ使用

## タイマー再生／録音のしかた

本機は、市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。

\* ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せてご参照ください。

### タイマー再生のしかた

#### ● 接続

1. 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
2. タイマー再生する機器の電源プラグを本機のAC OUTLETに接続します。  
(このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を越えないようにご注意ください。)

#### ● 操作手順

1. すべての機器の電源をONにします。
2. 本機のインプットセクターでタイマー再生する機器を選択します。
3. 再生する機器を操作し、タイマー再生が可能な状態にセットします。
4. 本機のVOLUMEを適当な音量に調節します。
5. タイマー再生開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。  
これでご希望の時間になりますと、タイマー再生が開始されます。

### タイマー録音のしかた

#### ● 接続

1. 本機の電源プラグをオーディオタイマーのコンセントに接続します。
2. チューナーなど録音したい機器およびデッキの電源プラグを本機のAC OUTLETに接続します。  
(このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を越えないようにご注意ください。)

#### ● 操作手順

1. すべての機器の電源をONにします。
2. 本機のREC OUTセクターで録音したいソースを選びます。
3. チューナーなど録音したい機器およびデッキを操作して、録音できるようにセットします。
4. 録音の開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。  
これで予定の時間になりますと、タイマー録音をすることができます。  
\* タイマー録音時に音出しが不要の場合は、VOLUMEを絞っておきます。

# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

- 本機を使用中に強い外来ノイズ(落雷、過大な静電気等)を受けた場合や誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しない場合があります。このような時は一度電源コードを抜き、約30秒後にふたたびつないで操作をやり直してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください
音が出ない	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	再生したい入力ソースに合わせてください。
	ボリュームが絞られている	VOLUMEコントロールまたはリモコンのVOLUMEキーで、音量を上げてください
	接続が不完全	接続を確認してください
片チャンネルの音が出ない	接続が不完全	接続を確認してください
	BALANCEコントロールがどちらか一方に回し切られている	BALANCEコントロールで左右の音量バランスを調整してください
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかり差し込み直してください
	レコードプレーヤーのアース線が接続されていない	レコードプレーヤーのアース線の本機のGND端子に接続してください
トーンコントロールを調節しても音質が変わらない	PURE DIRECTスイッチがONになっている	PURE DIRECTスイッチをOFFにしてください
MCカートリッジの音が小さい	PHONOスイッチがMMを選択している	PHONOスイッチをMCにしてください
VOLUMEコントロールを操作しても、音量があまり上がらない	MUTINGがONになっている	VOLUMEコントロールの音量を一杯に下げ、リモコンでMUTINGをOFFにし、再度音量を調整してください
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	リモコンと受光部の間に障害物がある	障害物を移動してください
	リモコン操作範囲から外れている	本体のリモコン受光窓に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)があたっている	照明または本体の向きを変えてください
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてお楽しみください
音が歪む、又は音が小さい	本機に接続したテープデッキの電源が切れている	テープデッキの電源をONにしてください

# 参考仕様

## ■ 入力感度

PHONO MC	100 $\mu$ V / 1k $\Omega$ 、220 $\Omega$
PHONO MM	2.5mV / 47k $\Omega$
CD他	150mV / 47k $\Omega$

## ■ 最大許容入力

PHONO MC	6mV
PHONO MM	150mV

## ■ 出力電圧 / インピーダンス

REC OUT	150mV / 2.5k $\Omega$
PRE OUT	1.5V / 47k $\Omega$ <small>トV</small>

\* 96.10.増刷時に修正した。

## ■ 最大出力

PRE OUT	8.0V
---------	------

## ■ ヘッドホン出力 / インピーダンス

RL=100 $\Omega$	4.5V / 68 $\Omega$
-----------------	--------------------

## ■ 周波数特性

20Hz~20kHz  $\pm$ 0.2dB

## ■ RIAA偏差

0  $\pm$ 0.2dB

## ■ 全高調波歪率 (20Hz~20kHz)

PHONO MC → REC OUT3V	0.003%
PHONO MM → REC OUT3V	0.002%
CD他 → PRE OUT3V	0.002%

## ■ 混変調歪率

CD他 → PRE OUT3V	0.002%
-----------------	--------

## ■ S/N

PHONO MC (250 $\mu$ V 入力ショート)	84dB
PHONO MM (2.5mV 入力ショート)	89dB
CD (入力ショート)	110dB
TAPE3 (入力ショート)	109dB
その他 (入力ショート)	107dB

## ■ 残留ノイズ (IHF-Aネットワーク)

1.0  $\mu$ V

## ■ チャンネルセパレーション

PHONO MC/MM (入力ショート、1kHz/10kHz)	80dB / 70dB
CD他 (入力5.1k $\Omega$ 、1kHz/10kHz)	85dB / 65dB

## ■ トーンコントロール

TREBLE	$\pm$ 10dB (20kHz)
BASS	$\pm$ 10dB (20Hz)

## ■ フィルター特性

サブソニック	15Hz-18dB/oct
--------	---------------

## ■ オーディオミュート

-20dB

## ■ トラッキングエラー (0~-60dB)

2dB

## ■ 電源電圧

AC100V 50/60Hz

## ■ 消費電力

27W

## ■ ACアウトレット

SWITCHED $\times$ 3	TOTAL 200Wmax
---------------------	---------------

## ■ 寸法 (W $\times$ H $\times$ D)

438 $\times$ 86 $\times$ 405mm

## ■ 重量

8.8kg

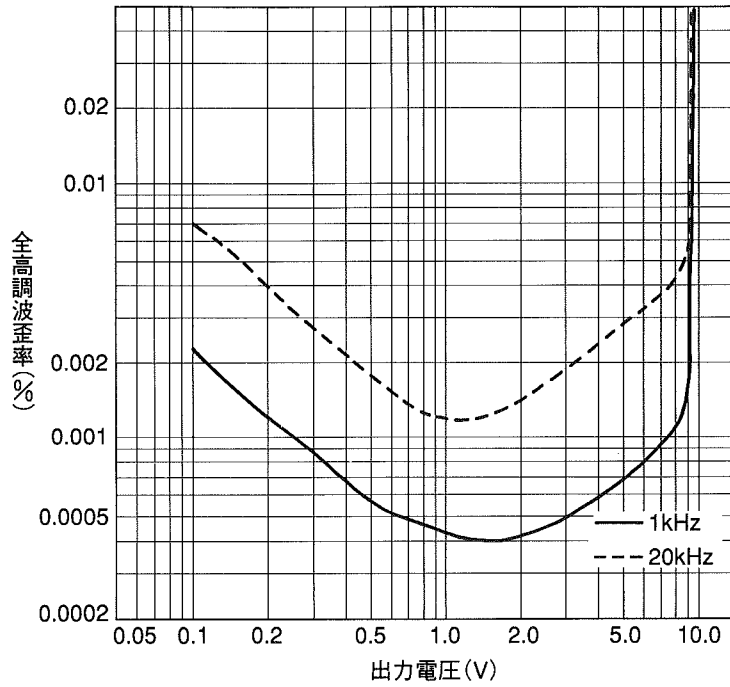
## ■ 付属品

リモコン、単3乾電池 (2本)  
出力コード、リモコンコード

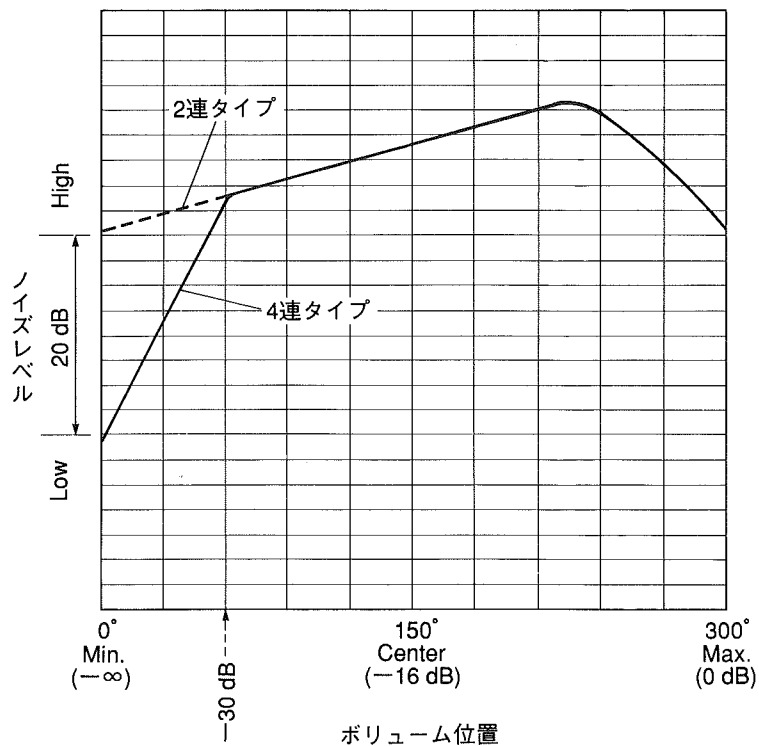
\*仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

# 特性図

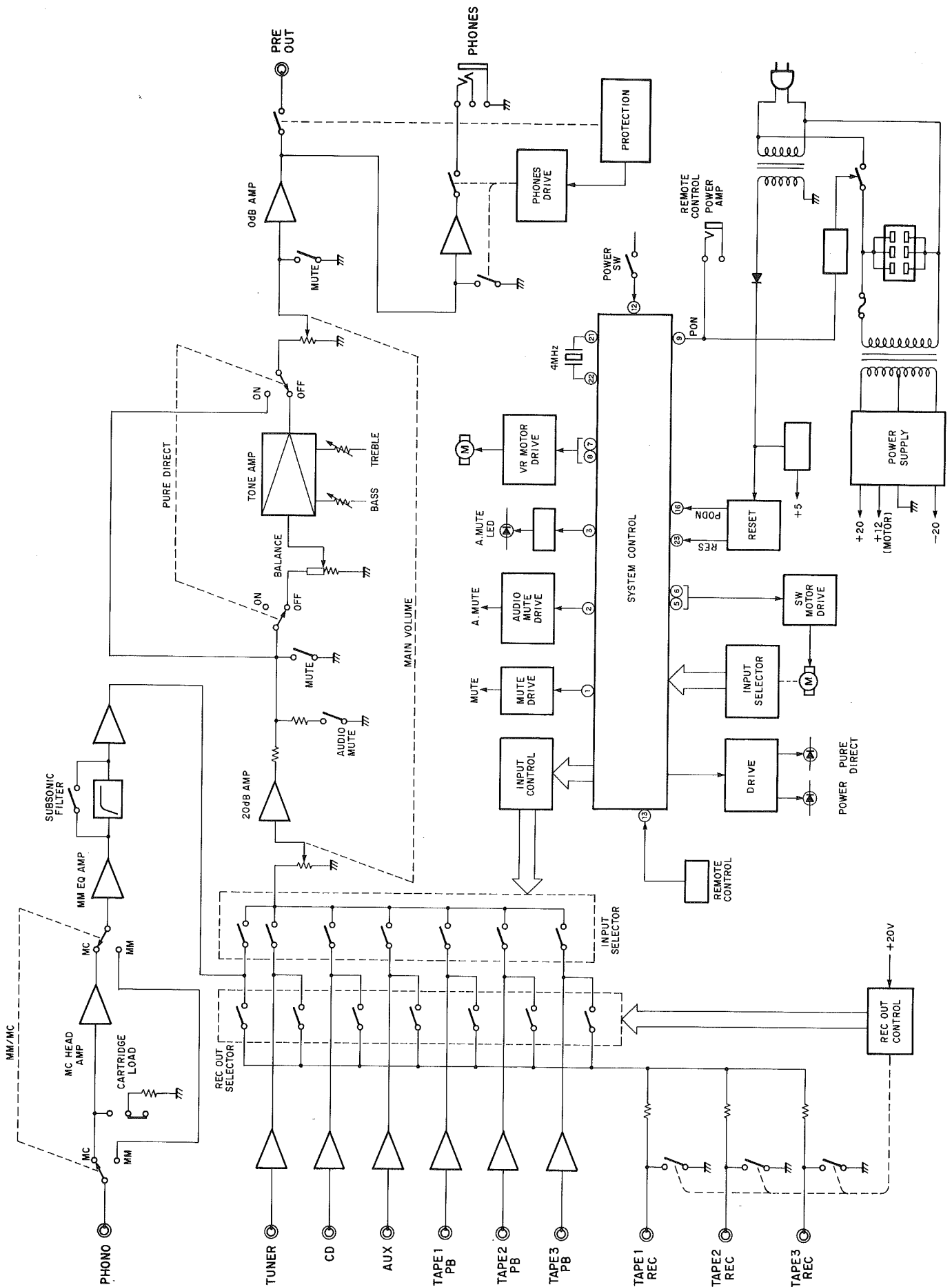
出力対歪率特性



ボリューム位置対ノイズレベル変化特性



# ブロックダイアグラム



**YAMAHA**